

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

中学1年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・ 自他のよさや違いを認め、相手の立場に立って考える態度を養い、人格の調和のとれた発達をめざし、よりよく成長していこうとする態度を育てる。
- ・ 自分自身の言動に対して責任をもち、自分や相手の人権を尊重できる豊かな人権感覚をもった生徒を育成する。
- ・ 世界における子どもの人権にかかる諸問題を認識し、子どもの人権を守るための取組について正しく知ることを通して、人権の保障は国際的な課題であることを理解させる。

実施した内容

- ・ 仲間づくり活動として、学年全員で「ひょうたん島問題」活動を実施した。（1時間）
- ・ 子どもをめぐる人権問題にはどんなものがあるのか、グループで話し合い、解決のために自分たちができることは何かについてクラスで意見を出し合った。（1時間）
- ・ 「子どもの権利条約」について学ぶことを通して、子どもを取り巻く世界の状況について学び、子どものために保障されなければならない権利について考えた。（1時間）

工夫した点

- ・ 仲間づくり活動においては、仲間と助け合いながら問題を解決したり、意見を交換したりしながら、互いを認め合い、積極的にコミュニケーション活動に取り組むことができるよう工夫した。
- ・ 世界の子どもの人権問題について、遠い外国の出来事であるというとらえ方をすることがないよう、資料提示や発問の仕方を工夫した。
- ・ 子どもも大人と同様に人格が尊ばれなければならないことについて理解させた。

他教科との
関連

- ・ 英語科にて、途上国の子どものおかれている現状を知り、自分たちにもできる国際協力について考えた。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

中学 3 年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・性別による固定的な役割分担意識があることに気付き、家庭での役割分担や男女の就労の在り方について考えることで、よりよい家庭を築いていこうとする意欲や態度を育てる。
- ・女性に対する暴力について、社会的背景や構造的背景を理解し、差別や暴力を許さない態度を養う。
- ・男女が互いに人権を尊重し、多様な選択が可能な社会の実現をめざす態度を育成する。

実施した内容

- ・家庭や社会生活において、自分たちの意識の中にも固定的な性別役割分担意識がないか、グループで話し合う。（1 時間）
- ・セクシュアルハラスメントやストーカー行為、DV 等、女性の人権侵害に繋がる課題や女性を守るための法律や条例等についてグループで調べたことを学級で発表し、男女平等の社会実現のためにどう意識を変えていくか意見交換をする（2 時間）

工夫した点

- ・グループでの話し合いのときに、自分や身近な人の体験については詳細な内容について発表を避ける等、個人情報取り扱いに注意する。
- ・女性の就業率が全国的にも高くなっているが、出産や育児の時期には低下していることや、長時間労働を前提とした職業環境があることにも気付かせる。
- ・マイナス面ばかりに焦点を当てず、男性の家事や育児の分担率も高くなっていることや男性がそれらの役割を楽しめる社会づくりをすることも大切であることに気付かせる。

他教科との
関連

- ・社会科にて、男女平等について学習した。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

中学 3 年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・ 高齢者に対して偏見をもつことの誤りを学び、高齢者の人権を尊重し、思いやりの心で接する態度を育てる。
- ・ 高齢者の現状や課題を正しく理解することにより、高齢者の権利について考える。
- ・ 高齢者が遭う経済的被害の実態を知り、高齢者がなぜ被害に遭うのかを考える中で、自分たちを含め、周りが高齢者を支え、被害から守ることの大切さに気付かせる。

実施した内容

- ・ 高齢者という言葉から受けるイメージについてグループで意見を出し合ったあと、家庭や地域での高齢者の生活の様子について話し合う。また、高齢者との関わりの中で気付いたことについても意見を共有する。（1 時間）
- ・ 高齢者が遭う経済的被害について調べ、その原因や、それを防ぐために中学生の自分たちにもできる支援の方法について考える。（2 時間）

工夫した点

- ・ 高齢者の生活の様子について話し合うときに、個人が特定されることのないよう、詳細な情報の報告は避けるよう注意喚起する。
- ・ 加齢による判断能力の低下等が原因になっている等の意見が出たとしても、どんな状態であっても、人としての尊厳が守られなければならないことに気付かせる。

他教科との
関連

- ・ 技術・家庭科にて「家族や地域の高齢者との関わり」を学習した。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

中学 1 年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 社会には障がい者が生活するうえで、障壁となるものが多くあることに気付かせ、障がい者も障がいがない人も共に支え合って安心して生活できる町づくりについて考えさせる。
- ・ 障がい者の社会参加や自立を阻んでいる物理的な障壁だけでなく、人々の心の障壁もなくしていくことの大切さに気付き、自分にできることを実践しようとする意欲を育てる。

実施した内容

- ・ 町のイラストを見て、障がい者が生活するうえで、障壁になっているものを見つけ、意見を出し合い、どのように改善したら障がい者が住みやすい町になるのか考える。（1 時間）
- ・ 車いすやアイマスク体験をし、校内の不便な箇所について確認する。（1 時間）
- ・ 障がいには様々な種類があることを調べ、実際に障がいのある人に出会ったときに、どんな言葉かけができるのか、自分にできることを考え発表する。（1 時間）

工夫した点

- ・ 本人の努力や家族の支えだけでは解決できないことが多くあることに気付かせる。
- ・ 障がい者が生活しにくい環境の要因として、社会の中に障がいのない人たち中心の考え方があることに気付かせた。
- ・ 障がいには様々な種類があり、外見でわかる障がいと外見からはわからないため、理解されず苦しんでいる人がいることを理解させるように工夫した。

他教科との
関連

- ・ 道徳科にて星野富弘さんの「花に寄せて」を学習した。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

中学 3 年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・同和問題の実態を正しく理解し、自分や周りの人の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を向上させ、それらを実際の行為に結びつける実践力や行動力を育てる。
- ・就職差別を自分の問題として捉えることで、差別を見ぬく力をつけさせ、実際に就職差別に直面した時に自分たちが公平な社会の実現のために行動していこうとする意欲と実践力を養う。

実施した内容

- ・教材「許せない就職差別」（わたしの願い）の学習で、自分の能力や適性とは関係ないところで採用・不採用が決定されてきた事実があったことについてグループで意見を交換する。（1 時間）
- ・グループでロールプレイを行い、「就職差別につながるとされる14項目」についての質問に対し、どのように行動するべきか考えさせる。（1 時間）
- ・これまでの学習をふり返り、これからどう行動していくか自分の考えを作文にまとめる。（1 時間）

工夫した点

- ・差別されてきた人々が果たしてきた役割や、残してきた文化を伝え、それが現代の私たちの生活につながっていることに気付かせた。
- ・同和問題が日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分差別により、今日においても根拠のない言い伝えや偏見によって差別されている人がいるという事実から、同和問題はすべての国民に保障されている基本的人権が完全に保障されていないという重大な人権問題であることに気付かせた。

他教科との
関連

- ・総合的な学習の時間にて、外部講師による講演「今、起きていること～人権の視点から考える」を実施し、差別の現実について学習した。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

中学 3 年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・多様な文化や習慣，価値観などがあることに気付かせ，自分にできることを考え，多様性を尊重し合い，共生しようとする態度を育てる。
- ・国際社会・共生社会の一員として，協働して共に幸せな社会を築いていこうとする意欲と態度を育てる。

実施した内容

- ・「ヘイトスピーチ」や「外国人の人権」（動画）の視聴や，人権作文「本当の国際化とは」を教材とした学習を通して，日本における外国人に対する様々な偏見や差別の実態を知り，差別解消のために自分にできることを考え，クラスで意見を共有した。（3 時間）
- ・在日外国人への偏見や差別の実態について，学んだことを振り返り，自分の生活経験などと重ね合わせ，外国人と共に生活するために，自分たちにできることを考えた。（1 時間）

工夫した点

- ・これまでの生活の中（転校，入学などの場面）で自分に対する「周囲の目」をどのように感じたかを考えることで，在日外国人の立場に立って，偏見や差別心について考えさせた。
- ・外国人を関わる具体的な場面を想定し，互いの文化や習慣などの多様性を認め合い，尊重しながら生活するために，できることを考え発表させた。

他教科との
関連

- ・総合的な学習の時間にて，日本で生活している外国人の方の講演を行い，文化や習慣の違いについて学習した。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

HIV感染者等

対象学年・
取り扱った教科等

中学 3 年生・道徳科

目標・人権教
育のねらい

・ HIVやAIDSについて正しく理解し、患者や家族に対する偏見や差別をなくし、共に生活していこうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・ 教材「HIV感染者の人権を考える」（わたしの願い）の学習で、血友病の治療の過程でHIVに感染し、偏見や差別をなくすためにたたかった主人公の願いや彼を支えた人々の心に共感し、正しい知識をもって行動することの大切さについて考えた。（1時間）
- ・ 感染者や家族が地域で安心して生活できるようにするために自分たちにできることを考え、クラス全体で意見を共有した。（1時間）

工夫した点

- ・ HIV感染者だけでなく、そのほかの難病でも長期にわたる治療や介護が必要な場合が多く、患者自身や家族の経済的負担も大きいことにも気付かせるよう、複数の治療例も紹介する等の工夫をした。
- ・ AIDSの流行によって起こった偏見や差別をなくすために、相手の人格を尊重する態度や行動が必要であることに気付かせた。

他教科との
関連

- ・ 保健体育科にて、HIVやAIDSについて学習した。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

中学 3 年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病問題を他人事としてではなく、自分自身の問題として受け止めながら、二度と同じような過ちが繰り返されないよう、ハンセン病について正しい知識を学び、偏見や差別を許さない心情や態度を育成する。

実施した内容

- ・厚生労働省作成のパンフレット「ハンセン病の向こう側」（中学生向け）を読んで、ハンセン病について、正しい知識を学び、ハンセン病回復者やその家族の思いを理解する。（1 時間）
- ・病気の原因や治療法が発見されたにもかかわらず、ハンセン病患者や家族に対する偏見や差別がなぜ生まれたかについて、グループで考える。（1 時間）
- ・教材「中学生のみなさんへ～ハンセン病と私～」（わたしの願い）を学習し、徳島県ハンセン病支援協会会長の著書の中で紹介されている回復者の思い（抜粋）を聞き、自分の考えをまとめる。（1 時間）

工夫した点

- ・ハンセン病に限らず、感染症や難病については、種類も多く、個人差があるため、外見から患者だとわかる場合もあれば、外見からは判断できないこともあるため、病気に対する偏見や無理解により、差別を受けることがあることに気付かせるよう工夫した。
- ・患者に対してだけでなく、その家族に対する偏見や差別をなくしていくことも大切であることに気付かせるよう、患者の家族の体験談等を紹介した。
- ・ハンセン病に対する無関心が差別を残す原因になっていること気付かせるよう工夫した。

他教科との
関連

- ・保健体育科の授業でハンセン病について学習した。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

中学 1 年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・ 誹謗中傷や個人情報の発信によるトラブルなど、インターネットで起きている様々な人権問題の状況や事例について考えることで、人権に配慮してインターネットを利用しようとする意識を育む。
- ・ 情報発信する側には大きな責任が伴うことを知り、情報発信をするときには最大の配慮をしていこうとする態度を養う。

実施した内容

- ・ SNSへの書き込みから大きなトラブルに発展した事例の動画を見て、トラブルの原因やインターネットを利用するときに気をつけることについてグループで話し合った。（1時間）
- ・ インターネットを利用するときに意識しておきたいことについてワークシートを用いてセルフチェックを行い、正しい利用方法について考え、クラスで意見を共有する。（1時間）

工夫した点

- ・ インターネットでは多くのトラブルが発生しているが、生活していく上で便利なツールであることにも触れ、利用する側の人権意識で生活が豊かになっていくことにも気付かせた。
- ・ アクセス数が多いホームページやSNSに載っている情報がすべて正しいとは限らないことを理解し、間違った情報を拡散しないことが人権を守る点で重要であることに気付かせた。

他教科との
関連

- ・ 総合的な学習の時間にて、タブレット端末の個人設定時に個人情報の取扱について学習した。
- ・ 技術家庭科の時間にて、コンピュータリテラシーを学習した。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

性的指向, 性自認

対象学年・
取り扱った教科等

中学 3 年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・性のありようは多様であることを知り, 互いの違いを認め合いながら, 他者と共生していこうとする態度を育てる。
- ・すべての人が安心して生活できる環境や社会をつくる意識をもち, 主体的に実現しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・「性同一性障害の子どもを育てる母親の手記」(“あわ”人権学習ハンドブック)を学習し, 自分の考えをまとめる。(1時間)
- ・レインボーフラッグに込められた思いやその意味について理解する。また, 性の多様性に気付き様々なセクシュアリティの人が安心して生活するために自分たちにできることを考え, クラスで意見を共有する。(1時間)
- ・教材「性の多様性と人権」(わたしの願い)の学習での自分の考えをまとめる。(1時間)

工夫した点

- ・生徒の発達段階をふまえたうえで, 生徒の心への影響に十分配慮して言葉の選び方等, 事前研修を行い, 授業に取り組んだ。
- ・一人一人の人格を形成するうえで「セクシュアリティ(性のありよう)」は不可欠な要素であること, セクシュアリティの4つの要素を知ること, 性は「男性」と「女性」の2つに分けることはできないことを理解させ, 性の多様性を尊重することは, 自分と周りの人権を大切にすることになるということに気付かせるよう工夫した。

他教科との
関連

- ・保健体育科にて, 心と体の成長について学習した。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

災害時における人権

対象学年・
取り扱った教科等

中学 1 年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・人と人がつながり、互いに支え合うことの大切さを理解し、あらゆる人々の人権が尊重された社会を実現しようとする態度を養う。
- ・災害発生時に起こりうる人権問題を解決する意欲を高めるとともに、地域社会の一員として自分に何ができるかを考え、主体的にすべての人の人権が尊重された社会を実現しようとする態度を養う

実施した内容

- ・災害発生時に避難所生活をするようになったら、どんなことに気をつけないといけないか、また、どんな困ったことが起こるのか、グループで意見を出し合う。（1 時間）
- ・災害発生時に起こりうる人権問題について調べたことをグループで共有したあと、クラスで発表する。（1 時間）
- ・道徳科の教科書にある「避難所にて」を読んで、災害発生時に地域の一員としてどんなことができるか考え、自分の意見や思いを発表する。（1 時間）

工夫した点

- ・子ども、高齢者、障がいのある人、外国人などが災害時要援護者になりやすいことを確認し、積極的な支援が必要であることを理解させた。
- ・具体的な生活の場面を想定し、自分ができることを考えさせ、発表させた。
- ・学んだことや考えたことをまとめさせ、自分自身の生き方にどうつなげていくのか、考えさせた。

他教科との
関連

- ・技術家庭科にて「災害時に備えて～食の備え～」について学習した。（2 時間）
- ・総合的な学習の時間にて「防災学習」に取り組んだ。（5 時間）

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

徳島県立富岡東中学校

人権課題

新型コロナウイルス感染症に関する
人権問題対象学年・
取り扱った教科等

全学年・学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・感染症について正しく理解し、患者やその家族に対する偏見や差別をなくしていこうとする態度を育てる。
- ・新型コロナウイルス感染症に対する不安を、感染者をつきとめたり、誹謗中傷したりすることで解消するのではなく、常に冷静に物事を見て判断する能力を養う。

実施した内容

- ・「新型コロナウイルス感染症の 3 つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」(日本赤十字社作成)の動画を視聴し、新型コロナウイルス感染症への嫌悪や偏見がどのように差別に発展していくのか、そのメカニズムを理解した。(1 時間)
- ・各学級で不安な状況の中でも正しい知識のもとで正しい行動を取ることの大切さを確認した。(1 時間)

工夫した点

- ・新型コロナウイルス感染症に限らず、未知の病気への不安が差別に発展していくことを避けるために、常に冷静に物事を見て、事実に基づいた判断をしていくことが大切であることを確認した。
- ・感染経験のある生徒がいることに配慮しながら学習を行った。

他教科との
関連

- ・保健体育科にて、新型コロナウイルス感染症について学習した。